

ぐふふふ…晓切歌の名前を出してちよつと脅しただけで
こんなにも簡単に交渉に応じるとは…まったくチヨロい、チヨロい…！

「……」

（特殊な環境下で育ってきただけあって
まだまだ世間知らずなのか、常識からズレているのか…
…どちらにせよ「ヨ」までできたら後はひと思いにいたただけだがね…！）



「お年頃のお嬢ちゃんがおっさん相手に
なんとまあはしたない格好だねえ…ぐふふふッ」

「それは……貴方がそうしってるいうから……」

「そつだったそうだった……！
現役JK！少し前まではJCだった調ちゃんの
オンナノコの部分が目の前に！いやあ絶景絶景！」

（中学は……行ってないんだけど……）

「——ホントにこれで切ちゃんは……」

「うんうん 何もしないよ！

「それどころか……より安全で健やかに暮らせるように
イロイロ手回しもしてあげるよお」

「……………」

「それじゃ失礼して……
——くばあッ!と……!」

「ん……ひあ……ん」

「ぐふふッ!
キレイで初心なオマンコだあ!
それと……処女のお膜をバッチリ確認ッ!」

「……ん……」
「(み、見られてる……私の恥ずかしい……
あんなに近くで……ん)」



「さて、と……おじさんもう堪らない感じだからさ、そろそろ調ちゃんをいたいたいちゃうよぉ〜！」

「あ、アレ……アレが……男のヒトの……」

「おじさんのムスコさんはデッカいでしょ〜！調ちゃんのオマンコ穴は小さそうだからちよ〜つとばかりしんどいかもねえ……」

「……ちよ……つと……待って……」
「大きすぎる……ッ！？ 入れる！？ アレを……！？」

「ん……ふふふ……ッ！怖いよねえ初めてだとでももう約束したしな〜」

「待……ッ ちよ……ちよ……とだけ……ッ 約束は守るッ！ けどもうちよ……と待って……ッ」

「ん……まあいきなりは可哀想だしな……」



「な~~~~んて…ねッ!」

「え…んギイイイ…ッ!」



「調ちゃんの処女膜さよなら~~~~ッ!」

「おひ…シー…?」



「な~~~~んて…ねッ!」

「え…んギイイイ…ッ!」



「調ちゃんの処女膜さよなら~~~~ッ!」
ぐんぐんぐんぐん~~~~ッ!」

「ほひ…ん…ッ!」

「ちよ…待っていて…うーっ！」

「や〜〜〜…おじさんさあ
こっちは「一気に膜破いちゃうのが大好きなんだなあ〜！」

「エウッ」

「エウッ」

「エウッ」

「エウッ」

「エウッ」

「ど〜かなあ調ちゃんツ！
調ちゃんの一生に一度の大事な大事な処女喪失は
ごん・な！しよ〜もないのなんだよお！
ぐんぐん…ッ！」

「ぐ…ッ はぐうううう…ッ！
この…お…卑劣漢…んんん…ッ！」

「ぬっ…っいっ♡♡♡♡♡

「おっとうとお…コレはあくまで切歌ちゃんのため！
そっだよねえ？」

「く…っ…っ…ッ！」

「ちよ…待っていて…うーっ！」

「や〜〜〜…おじさんさあ
こうやって一気に膜破いちゃうのが大好きなんだなあ〜！」

「ど〜かなあ調ちゃんツ！」

「調ちゃんの一生に一度の大事な大事な処女喪失は
ごん・な！しよーもないのなんだよお！
ぐんぐん…ッ！」

「ぐ…ッ はぐうううう…ッ！
この…お…卑劣漢…んんん…ッ！」

ぬちゅいっ♡

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

「おっとうとお…コレはあくまで切歌ちゃんのため！
そっだよねえ？」

「〜っ…ううう…ううう…ッ！」

「ちよ…待っていて…うーっ！」

「やーっ…おじさんさあ
こつやつて一気に膜破いちゃうのが大好きなんだなあ〜！」

「エグッ」

「エグッ」

「エグッ」

「エグッ」

「エグッ」

「どろかなあ調ちゃんツ！
調ちゃんの一生に一度の大事な大事な処女喪失は
こ・ん・な！しよーもないのなんだよお！
ぐんぐん…ッ！」

「ぐ…ッ はぐうううう…ッ！
この…お…卑劣漢…んんん…ッ！」

「ぬっ…いっ♡」

「おつととお…コレはあくまで切歌ちゃんのため！
そつだよねえ？」

「…っ…うーっ！」

「破瓜したてでかなーり痛いだろうけど…
おじさん動いちゃうねえッ」

「はッ……ふん……?」

「うんッ……うんッ!」

「調ちゃんのカラダは小さくてスレンダーだから
予想通りのキツキツまんこだよおッ」

「くうッ……ッ!? そんなに動くと……痛みが……ッ!」

「前々からなららんかエロい雰囲気あるなあと思ってたけど
オマンコの造りも相当スケベさんだねッ!
膜無くしたてなのにじゅっぽんじゅっぽんお肉でシゴきにきてる……!
こりゃ類稀なチンポ好きの名器に違いないよおッ……!」

ぐっほ

グッ
にッ

「な……ッ!?」

「そんな……ッ……エッチな子みたいに……いわないで……ッ……!」

「破瓜したてでかなーり痛いだろうけど…
おじさん動いちゃうねえッ」

「はッ……ふん……ッ……?」

「うんッ……うんッ!」

「調ちゃんのカラダは小さくてスレンダーだから
予想通りのキツキツまんこだよおッ」

「くうッ……ッ!?! そんなに動くと…痛みが…ッ!」

「前々からなららんかエロい雰囲気あるなあと思ってたけど
オマンコの造りも相当スケベさんだねえッ!
膜無くしたてなのにじゅっぽんじゅっぽんお肉でシヨきにきてる…!
こりゃ類稀なチンポ好きの名器に違いないよおッ……!」

「な……ッ!?!」

「そんな……ッ……エッチな子みたいだ……いわないで……ッ……!」



「破瓜したてでかなーり痛いだろうけど…
おじさん動いちゃうねえッ」

「はっ……ふん……？」

「うんッ… うんッ！」

「調ちゃんのカラダは小さくてスレンダーだから
予想通りのキツキツまんこだよッ」

「くうッ…ッ！？ そんなに動くと…痛みが…ッ！」

「前々からな〜らんかエロい雰囲気あるなあと思ってたけど
オマンコの造りも相当スケベさんだねッ！
膜無くしたてなのにじゅっぽんじゅっぽんお肉でシコきにきてる…
こりゃ類稀なチンポ好きの名器に違いないよお〜…！」

「な…ッ…？」

「そんな…ッ…エッチな子みたいだ…いわないで…ッ…！」



「エッチな子! いいことだよ!」
おじさんのオチンポも…こんなに悦んじゃってるしねえツ!

「んはあツ……?」

「はの……あの……ちひろ……ツ……?」
「……う……う……う……ツ……?」
「……ん……ん……ん……ツ……?」

「ブクッ」

「ブクッ」

「ごめんねホント! めっちゃイタイんだろツけど!
今おじさんがすごい気持ちいいから我慢我慢ツ!
ね! ぐふふふふツ!
コレだとすぐに出せそうだよお!」

「だ……え……ツ……?」
「なに……ツ……だ……ツ……?」

「ブクッ」

「あ……やべ……ツ……!」
「あ……い……ツ……! は……ツ……!」
「だ……え……ツ……?」

「ブクッ」
「ブクッ」
「ブクッ」
「ブクッ」



「はあああああ~~~~~
でたあああ~~~~~
ツッ!」

「は~~~~~
な~~~~~
ツッ!」

「ゴクッ!」

「ゴクッ!」

「ナマ・な・か・だ・しいツッ!
今してるんだよ~~~~~
ツッ!」

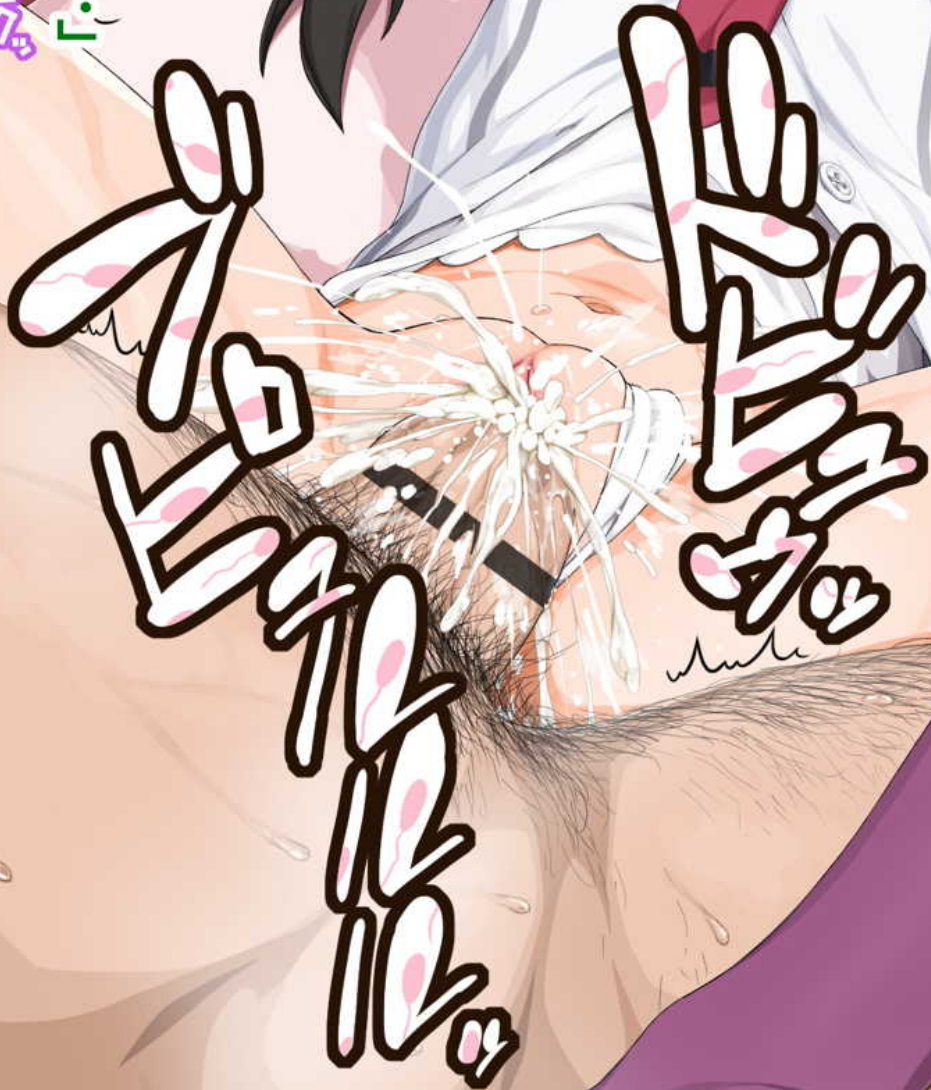
「せえ~~~~~
ウツ~~~~~
ツッ!」

「ほっほおおツッ!
うっひよお~~~~~
ツッ!」

「JKに生中きんもちイイ~~~~~
ツッ!」

「ゴクッ!」

「ゴクッ!」



「はあああああ~~~~~
でたあああ~~~~~
ツッ!」

「は~~~~~
な~~~~~
ツッ!」

「ゴクッ!」

「ゴクッ!」

「ナマ・な・か・だ・しいツッ!
今してるんだよ~~~~~
ツッ!」

「せえ~~~~~
ウツ~~~~~
ツッ!」

「ほっほおおツッ!
うっひよお~~~~~
ツッ!」

「JKに生中きんもちイイ~~~~~
ツッ!」

「ゴクッ!」

「ゴクッ!」

「ゴクッ!」

「ゴクッ!」



「はあああああ~~~~~
でたあああ~~~~~
ツッ!」

「は~~~~~
な~~~~~
ツッ!」

「ゴクッ!」

「ゴクッ!」

「ナマ・な・か・だ・しいツッ!
今してるんだよ~~~~~
ツッ!」

「せえ~~~~~
ウツ~~~~~
ツッ!」

「ほっほおおツッ!
うっひよお~~~~~
ツッ!」

「JKに生中きんもちイイ~~~~~
ツッ!」

「ゴクッ!」

「ゴクッ!」



「マジでさいごオ……」
このマジ「精子出した途端さらにやらしく絞ってくるもんだから
射精とまんないわ……」
調ちゃんホントにスケベな娘だねえ……ッ！」

「うあ……ん……は……ん……ッ
すっごい……入ってくる……ん……」

「おじさんこのまま気持ちよ……く中出ししちゃいたいから
調ちゃんッ 悪いけど……妊娠覚悟しておいてねッ」

「どおしよあ……どおしよあ切ちゃん……!?
こんなッ……! ウンよあ……!」

「はっひい……ッ!」
ああ……え……気分だわあ……!」



「マジでさいごオ……」
このマジ「精子出した途端さらにヤらしく絞ってくるもんだから
射精とまんないわ……」
調ちゃんホントにスケベな娘だねえ……ッ！」

「うあ……ん……は……ん……ッ
すっごい……入ってくる……ん……ッ」

「おじさんこのまま気持ちよ……く中出ししちゃいたいから
調ちゃんッ 悪いけど……妊娠覚悟しておいてねッ」

「どおしよあ……どおしよあお切ちゃん……!?
こんなッ………! ウッよあ……!」

「はっひい……ッ……! ああ……ッ……! え……ッ……気分だわ……ッ……!」

「マジでさいごオ………」
「このマジ」精子出した途端さらにヤらしく絞ってくるもんだから
射精とまんないわ………!!
調ちゃんホントにスケベな娘だねえ……ッ!」

「うあ………は……ん……ッ
すっごい……入ってくる………ッ……」

「おじさんこのまま気持ちよ……く中出してしちゃうたいから
調ちゃんッ 悪いけど……妊娠覚悟しておいてねッ」

（どおしよお……どおしよお切ちゃん……!?!
………ッ ウッよお……!?!）

「はっひい……ッ!」
あぁ………え……気分だわぁ………!」



「いやあ、まさに極楽が垣間見えた夢見心地だったわあ……」

「はあ……ッ……はッ……！んはああ……ッ……！」

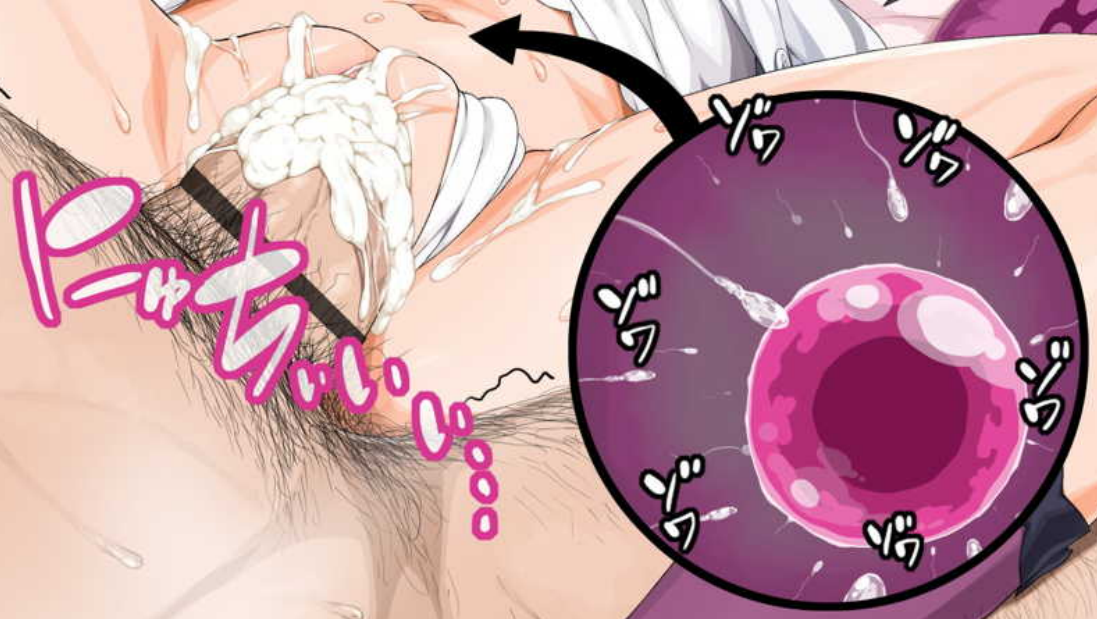
「こんなに出しきったのは久々かな……？」

「出……過ぎ……ッ……！」

「ごりゃあおじさんの精子が相当調ちゃんのお胎の中でがんばっちゃってるだろうなあ！」

「妊娠……そんなのダメ……ッダメなのに……ッ……！」

「だいじょーぶだいじょーぶ！保護観察とはいえ調ちゃんはS.O.N.G.の二員、きつとお給金もたろっつぷり出るからねえ……！イロイロするお金には困らないでしょ！」



「P-ちゅわ……」

「いやあ、まさに極楽が垣間見えた夢見心地だったわあ……」

「はあ……ッ……はッ……！んはあ……ッ……！」

「こんなに出しきったのは久々かな……？」

「出し……過ぎ……ッ……！」

「ごりゃあおじさんの精子が相当
調ちゃんのお胎の中でがんばっちゃってるだろうなあ！」

「妊娠……そんなのダメ……ッ
ダメなのに……ッ……！」

「だいじょーぶだいじょーぶ！
保護観察とはいえ調ちゃんはS.O.N.G.の一員、
きつとお給金もたっぷり出るからねえ……！
イロイロするお金には困らないでしょ！」

「P-ちゅわ……」



「いやあ、まさに極楽が垣間見えた夢見心地だったわあ……」

「はあ……ッ……はッ……！んはあ……ッ……！」

「こんなに出しきったのは久々かな？……？」

「出……過ぎ……ッ……！」

「ごりゃあおじさんの精子が相当調ちゃんのお胎の中でがんばっちゃってるだろうなあ！」

「妊娠……そんなのダメ……ッダメなのに……ッ……！」

「だいじよーぶだいじよーぶ！保護観察とはいえ調ちゃんはS.O.N.G.の一員、きつとお給金もたろっつぶり出るからねえ……！イロイロするお金には困らないでしょ！」

ポチャポチャ



「な…ッ イロイロして……
どこまで…下劣な男なの…ッ…!?!」

「いやいや調ちゃんには知らないかもだけど
お邪魔なお胎のお掃除は
みくんなワリと気安くやっちゃってるんだよあ?
ポイポイ…ってな感じでさあ」

「でも…ッ…
私はそんなの……」

「イヤだ…そんなの…ッ
私はしたくない…ッ!
デキちゃったたら…本当にどうすればいいの…!?!?
デキちゃったたら…ッ 妊娠…ちゃったたら…ッ」

「したくない…妊娠したくない…ッ!
せんぱい…響さん…切ちゃん……」

「おちゅああ」

「あああ」

「精子」

「それにホラ、もともと切歌ちゃんのための性交なワケだし
今後の切歌ちゃんとの安穩とした日々の為と思えば…
赤子を1回や2回アレしちゃうのなんて軽い軽いッ」

「やっ…やっ…低…ん…」

「でもさあ…お胎大きくなっちゃったら

それこそ切歌ちゃんが心配しちゃうよねえ…？
気付かれると…おじさんとのこの交渉も

イロイロと都合悪くなっちゃうかもなあ…
…ねえ？」

「く…ん…」

（そっ……だ

切ちゃんに気付かれちゃダメなんだ…ッ
気付かれなければ…切ちゃんに危害は及ばないし
今後の生活も豊かになる…）

（私が切ちゃんを幸せにするんだッ
私がここで耐えれば…それで済む…）



「それに……そもそもデキなければそれまでの話ッ
よく……知らないけど……」

子供なんてそう簡単に仕込めるものじゃないはず……ッ」

「まあ そうだなあ
今まで調ちゃんくらい娘を沢山いただいてきたけども
デキちゃったのは半々くらいだったしねえ……」

「どにかぐ……これで……切ちゃんの「ト」は……」

「うんうん ソ」はちやくんとわかってるって！
調ちゃんの「ヨ」すううごくスケペさんだったから
切歌ちゃんの安全も今後の二人の生活も
手厚くフォローしてあげるさ」

「だから……私のをそんな
エッチだとか言わないで……ッ……」

「オシナン」としてマン」が気持ちいいコトは
相当ポイント高いことだと思っただけだなあ」

着床



ゾクゾク

ゾクゾク

ゾクゾク



「……あと……もしものための……
病院の連絡先も……一応……」